

国内サービスマネージメントソフトウェア市場規模予測を発表

- ・ 2008年国内サービスマネージメントソフトウェア売上額は、前年比8.3%増の1,525億円
- ・ 景気後退の影響から伸び率に若干の影響は出るものの、市場規模は拡大していく
- ・ 2007年～2013年の年間平均成長率は6.4%で拡大

2009年5月、IT専門調査会社であるテクノ・システム・リサーチは、国内サービスマネージメントソフトウェアの現状と今後について分析した調査報告書を発表しました。これによると2008年のサービスマネージメントソフトウェア(ライセンス売上のみ)の市場規模は、前年比8.3%増の1,525億円。2007年～2013年のサービスマネージメントソフトウェア市場の年間平均成長率(CAGR)は6.4%で、2013年の売上額は2,048億円になると予測しています。

2008年後半からの景気後退によって、サーバーなどのハードウェアは大きく落ち込んでおり、ハードウェアにバンドルしてサービスマネージメントソフトウェアを販売する形態であるシステム販売は減少している。しかし、サービスマネージメントソフトウェア単体の売上においてはそのような状況下であってもプラス成長を達成しています。

その要因として、「運用管理費を削減」という目的を達成するためには必須の製品であるという点が挙げられます。今まで「運用管理は人である」という観念から人の能力に依存した形で運用管理は進んできましたが、「運用管理費を削減」するためには管理を標準化し、ソフトウェアを導入することで属人性から脱却していく必要があります。つまり、「サービスマネージメントソフトウェアの導入＝コスト削減」という構図に繋がることから、ますますサービスマネージメントソフトウェアの需要が高まっていくと予測しています。

さらに、「ITシステムの見直し」を行うという観点から『構成/変更管理ソフトウェア』の需要増加や、「インフラの統合」の観点から『システム統合管理/監視ソフトウェア』に対する注目が高まっていることがわかりました。

シニアアナリストの幕田範之は、次のように述べています。

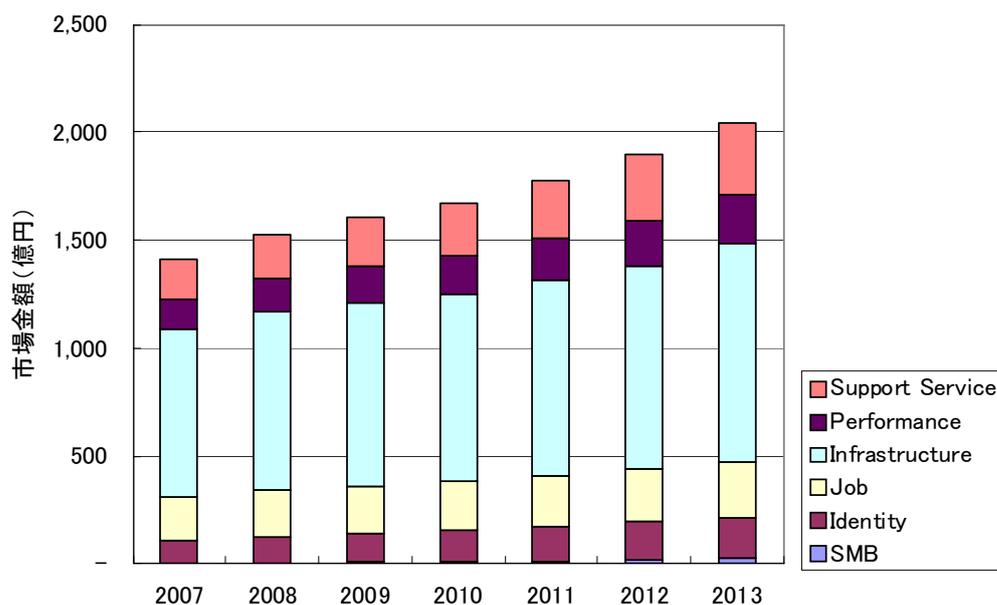
「今後さらに各企業の売上が落ち込むと、さらなる「運用管理費の削減」が求められ、既存システム管理体制を維持することが難しくなる可能性がある。そのため、ユーザーは既存の「縦割りのシステム」から「横軸のシステム」への転換、又は「クラウドを活用」することや、「運用管理＝人」から脱却することが求められる。またこれらを実現されることでサービスマネジメントソフトウェア市場は大きく拡大していくことになる。」

今回の発表はテクノ・システム・リサーチが発行したレポート「サービスマネジメント市場のマーケティング分析」～『ユーザーの本当のニーズ』と『次の一手』～にその詳細が報告されています。

本レポートでは、メーカー・SIer・ユーザーの3方向からの視点で分析を行うと同時に、サービスマネジメントソフトウェアの2007年、2008年の出荷実績及び市場分析、2009年～2013年までの予測を行っています。また、サービスマネジメントソフトウェアを15のカテゴリに分類しそれぞれ出荷実績調査と予測を行っています。

<参考資料>

サービスマネジメントソフトウェア市場トレンド（2007年～2013年）



出展：(株)テクノ・システム・リサーチ

お問い合わせ先

(株)テクノ・システム・リサーチ

幕田範之

TEL : 03-3851-5651

e-mail : makuta@t-s-r.co.jp